

# 労農全國組合會議に關する聲明書

資本の反動的攻勢は益々強固と露骨さを加へ一方には無産階級の階級に對して徹底的に攻撃し、日本の經濟閉塞の進行に際してさへ、支配階級の有する一切の勢力、機關を動員してその窮乏と破産とに對し、他方には種々の空虛な社會政策施設によつて勞働大衆を欺瞞し、以て無産階級運動の原動力を挫きしつゝある。

斯やうに資本の反動的攻勢と同時に、失業者の縮小、生活の貧困化と不安は極度に増大し、無産階級の現在の生活それ自身維持するに足らず、その困難さを加へて來た。

吾が無産階級が現實に當面しつゝある、この資本の反動的攻勢に抵抗するの道は、實に無産階級の有する分散し孤立せる一切の勢力を結合し動員して戦闘力の集中を圖り、抗争することである。

この無産階級の當面する必要から、勞農組合の地方會黨又は無産階級協議會が成立し發達した。このことは現實主義を固守し、農民組合を地主階級の擧取の祭壇に捧げた、日本農民同盟、日本農民黨一派の裏切者的な高唱せる勞働者農民の共同戦線が不可能であり、不必であるといふタリ言を更切つて、現實に於て勞働者農民の共同

戦線が可能ならばかりでなく、實に兩者の結合を圖るべき條件が既に存在してゐることを示すものである。そしてその必要によつて、現實に成立し得るものなのである。然るに資本の攻勢に抵抗し、抗争するために抗争すること、個々の地方に必要ならばかりでなく、全國的に必要であり緊急である。そしてそれは實に、勞働農民大衆の現實の利益をも代表して闘争するために、政治的共同戦線たる組合會議の形成に最善の勢力を盡すことは、闘争團體たる全勞農階級の最大の義務であることを示すのである。

然るに六月廿日大阪中央公會堂に於て開催された「全國組合會議」が、不幸にして結成準備の一機關とへ設置し得ず、單に今後の努力を申合せたのみで解散するに至つたことをわれ等は遺憾とするものである。

當日所謂「現實主義」を奉ずる総同盟代表者は種々數千百を費して、結局、その成立が時期早向であるといふことに依つて、この會議の成立を極力切害したのであった。もしより我が國で最も鮮明な戰闘的綱領を掲ぐる總同盟代表者は、社會的情勢の示す資本の攻勢の忠告たることを表した。吾が國の如き分散し孤立せる多數組合が存在する場合には直に一體整理されて強固な組織となり得ることを擧げることは、戰闘的總同盟者のみの認めるところである。勞働運動に多少の熱心を持つものならば組合會議をそれ自身の發達過程にその努力を認め準備すべきである。然るに「現實主義」が常に現實に適應した政策や方針なるかの如く思惟する總同盟代表者が、かかる主張を叫ぶに至つて、實に現實主義に感傷した空想論者、觀念論者以外ならぬことを暴露したものである。

斯くて組合會議成立を切害、破壊した總同盟代表者等は、戰闘的勞働組合の戦闘の下に、資本家及地主並に政府の忠告なる代理人として現れ、彼等の目的は無産階級運動の發展を抑制し、切害し、撥亂し、無産階級をブルジョアの陣營に買渡さんとする陰謀であつたのである！

最近種々の新聞は「現實主義」を奉ずる所謂右翼團體の總聯合成立計劃のあることを傳へつゝある。若し之が眞實とするならば、六月廿日の全國組合會議成立切害が如何なる意圖によつて成されたかを事實に於て認するものである。即ち全國の各有力なる勞農團體の參加せる組合會議の成立は、右翼團體聯合の企圖を全く瓦解に

際し断つて目前であるといふはなかつた。總同盟代表者も亦、資本の攻勢に對して無産階級の共同戦線が必要であることを少くも口先のみでは承認したのであつた。けれども彼等はその實行に當つてに時機尚早と辯じて反對したのである。この實行に際して尙早を唱へることは、資本の反動的攻勢に對しては、何等も成さない、また成すことを欲せざるに過ぎない。即ち總同盟代表者は全く勞農大衆の現實の要求或は問題に對して無關心であり他人である。正に階級闘争の立場を放棄して資本の陣營により「一步前進」したものである。彼等は茲に完全に彼等自身の階級的裏切りを暴露し、聲明したのである。

總同盟代表者も亦、總同盟代表者は、また更に云ひ、資本の攻勢に抵抗し得べき組合會議は強固な組織と有力な活動をなす組合會議でなければならぬ。しかるに現在成立し得る程度のものには單に戦闘的援助をなす位のものであつて、強固なる組織を有する會議の成立は不可能である。そしてかかる程度のものも全然必要である。此處に至つて、現實主義を奉ずる總同盟代表者は組合會議の成立を切害し、相當の發展段階に達したものを混同するこの論議と闘争とを以て、成立の不必要さへを示すことによつて愈々資本家